書 評

こんなときオスラー
『平静の心』を求めて

平島　修，徳田安春，山中克郎（著）

中西内科院長
中西重清

オスラーにはなれないけれど，オスラーの心から学ぶ

私が書評を書くに相応しい人間かどうかわからないが，開業医の立場から解説する．ウィリアム・オスラーの『平静の心―オスラー博士講演集（Aequanimitas）』（医学書院，2003）は名著であるが，難解である．精読したいとは思うが，数ページで挫折してしまうのは私だけではないかもしれない．3人のオスラリアン（オスラー伝道医師）が，わかりやすく実例を交えて解説し，臨床現場で平易に活用できる一冊としたのが，『こんなときオスラー―『平静の心』を求めて』である．

8つの大きな見出し（「臨床上の葛藤―医師と患者のはざまで」「日々の勉学の中で」「教師と生徒」「進むべき道への迷い」「理想の医師像を求めて」「人生と平和と愛と」「付録」「オスラーの生涯と言葉」）で構成され，いつでも，どこからでも，気になったところから読める．臨床に悩んだときに探しやすい構図になっている．この厚さなら軽いので寝転んでも読めるし，急患が来たら，読み止めることもできる．もうあなたは，『平静の心』を仮眠用の枕にしなくてもよいのである．なんて斬新な試みだろう．

中身は，オスラーのクリニカルパールが満載である．教養を身につけ，医師としてだけでなく，人として成長せよ．病気が相手ではなく，人が相手である．医療は病になっている人を診ているのであって，病気を治すのが先ではない．可能であれば，医学教育にも携わりなさい．著者の心の豊かさと深さ，厳しさが随所に垣間見える．オスラーにはなれないけれど，オスラーの心を知り，わが身の姿勢を正すことはできそうである．

『こんなときオスラー』というタイトルではあるが，いつも側に置いて欲しい，「どんなときもオスラー」が一緒にいて，貴方に語りかけてくるだろう．ひょっとすると，貴方の医師人生を変える書籍かもしれない．

●A5/頁 200/2019年
定価：本体2,400円＋税
[ISBN978-4-260-03692-4]
医学書院 刊

©IGAKU-SHOIN Ltd. 2019
2026/10/07 13:18:22